

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 特 許 公 報 (B 2)

(11)特許番号

特許第3391718号  
(P3391718)

(45)発行日 平成15年3月31日(2003.3.31)

(24)登録日 平成15年1月24日(2003.1.24)

(51)Int.Cl.<sup>7</sup>

B 6 5 D 33/38

識別記号

F I

B 6 5 D 33/38

請求項の数3(全 3 頁)

(21)出願番号 特願平10-305274

(22)出願日 平成10年10月27日(1998.10.27)

(65)公開番号 特開2000-128192(P2000-128192A)

(43)公開日 平成12年5月9日(2000.5.9)

審査請求日 平成12年6月2日(2000.6.2)

(73)特許権者 000000918

花王株式会社

東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号

(72)発明者 鈴木 英哉

東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会社研究所内

(74)代理人 100076532

弁理士 羽鳥 修 (外1名)

審査官 上尾 敬彦

(56)参考文献 特開 平11-59704 (J P, A)

特開 平6-1358 (J P, A)

実開 平6-25143 (J P, U)

(58)調査した分野(Int.Cl.<sup>7</sup>, D B名)

B65D 30/00 - 33/38

(54)【発明の名称】 袋

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】 2枚の側壁フィルムを重ね合わせた袋であって、注ぎ口における各側壁フィルムに、注出方向に向けて、対向しない非対称の位置に補強線を各々形成してあり、且つ2枚の側壁フィルムに形成した上記補強線が互いに交差した袋。

【請求項2】 上記非対称な補強線を湾曲形成した請求項1記載の袋。

【請求項3】 上記補強線が、上記各側壁フィルムの縦方向中心線と交差して少なくともその中央部分まで延長している請求項1記載の袋。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、注ぎ口を改良した袋に関する。

2

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】 特開平7-2260号公報に、液体注出時における注ぎ口の閉塞防止のために、注ぎ口に、フィルムの変形加工によって形成された線状変形からなる補強機構を設けたものが記載されている。

【0003】 上記の補強機構は、自立袋を構成する二枚のフィルムに、各二つの補強機構が、対向する同じ位置、即ちに対称的に各々配置されるものであるため、閉塞しやすく、内容物を安定して注出できない場合がある。

【0004】 本発明は、注ぎ口の為の変形加工が容易で、且つ閉塞を生じることなく安定した方向へ内容物を注出できる袋を提供する。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明は、2枚の側壁フィルムを重ね合わせた袋であって、注ぎ口における各側壁フィルムに、注出方向に向けて、対向しない非対称の位置に補強線を各々形成してあり、且つ2枚の側壁フィルムに形成した上記補強線が互いに交差した袋を提供することにより、上記目的を達成したものである。

【0006】

【発明の実施の形態】本発明の好ましい実施形態である自立袋10は、図1に示すように、ポリエチレン等の可撓性のフィルム材料からなる一対の側壁フィルム11と底壁フィルム12とを、その縁部をシールして袋状に一体化し、液体を収容する収容部16を形成したものである。自立袋10の上端角部には、縁部から斜め上方に突出する注ぎ口片13が設けてあり、この注ぎ口片13の先端部分を線A-Aに沿って切り取ると、先端が開口する注ぎ口14が突出形成される。

【0007】注ぎ口14における上記一対の側壁フィルム11には、注ぎ口14の突出方向の各中心線X-Xを挟んで、一方(図1の表側)の側壁フィルム11については中心線X-Xから斜め上方にずれて湾曲しつつ延長する断面凸状の第1補強線17を、他方(図1の裏側)の側壁フィルム11については中心線X-Xから斜め下方にずれて湾曲しつつ延長する断面凸状の第2補強線18を、各々形成してある。

【0008】第1補強線17は、斜め上方に凸となった曲線状に湾曲し、側壁フィルム11の縦方向中心線Z-Zを越えてさらに延長する。

【0009】第2補強線18は、斜め下方に凸となった曲線状に湾曲した後、側壁フィルム11の縦方向中心線Z-Zと交差する位置を変曲点として、斜め上方に凸となった曲線状に湾曲しつつさらに延長してS字カーブを描き、その終端部分は、自立袋10の胴部表面略中央部分において、側縁部分に近接して位置する。

【0010】第1補強線17と第2補強線18は、縦方向中心線Z-Zの付近で交差する。

【0011】断面凸状の第1補強線17及び第2補強線18は、各々、例えば加熱された雄雌型を用いて側壁フィルム11を金型の溝内でプレスしたり、あるいはヒートシール等によって、外側に凸となった断面の線形補強機構として、これらを対称に配置することを要することなく、容易に形成することができる。また、加圧成形等によって、例えば断面が半円形状の突条を側壁フィルム11に沿って形成することで、各補強線17、18としても良い。

【0012】本実施形態によれば、図2に示すように、側壁フィルム11のシール中心線Y-Yを対称軸として上記中心線X-Xの両側に非対称にずらして配置された第1補強線17及び第2補強線18によって、注ぎ口14の開口は、表裏の側壁フィルム11にかかる力の方向を変化させながら扱われるので、注出時における注ぎ

口14の開口を促して、注ぎ口14の閉塞を効果的に防止する。また非対称な第1補強線17及び第2補強線18により、注ぎ口14にはねじれた仮想導入路が形成されて、内容物がねじれた状態で流出するので、安定した流出方向が保持され、又、注ぎ性が向上する。

【0013】また、本実施形態によれば、注ぎ口14における第1補強線17及び第2補強線18が、上記各中心線X-Xを挟んで異なる側に湾曲する曲線状に形成されているので、内容物がスパイラル状に流出して、注ぎ性や流出方向の安定性がさらに向上する。

【0014】さらに、本実施形態によれば、第1補強線17及び第2補強線18が、各側壁フィルム11の縦方向中心線Z-Zを越えて、自立袋10の胴部表面略中央部分まで延長しているため、内容物の重量によって胴部が押し上げられようとする力を、これらの補強線17、18を介して注ぎ口14まで導き、注ぎ口14の開口を開かせる力へと変換して、注ぎ口14の閉塞をさらに効果的に防止するとともに、注ぎ性を向上する。

【0015】さらに、各補強線17、18が自立袋10の胴部表面略中央部分まで延長していることにより、袋の剛性を高め、手に持つ時の把持性を向上できると共に、自立性を向上できる。また見栄えを良くして自立袋10の外観が向上でき、注ぎ口14のアクセントラインや保持ガイドの役割も果たす。

【0016】本発明は種々の変更が可能である。例えば、第1補強線17及び第2補強線18は、直線あるいは直線の組合わせでも良く、また各中心線X-Xの同じ側でも良く、湾曲又は屈曲方向も同じ側でも反対側でも良い。また、第1補強線17及び第2補強線18は、少なくとも注ぎ口14に設けられていれば良く、必ずしも胴部中央部分まで延長させる必要はない。さらに、注ぎ口14は必ずしも斜め上方に突出するものである必要はなく、上縁中央に上方に突出していても良いし、突出していなくとも良い。

【0017】

【発明の効果】本発明の袋によれば、注ぎ口の変形加工が容易で、且つ閉塞を生じることなく安定して内容物を注出することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施形態に係る自立袋を示す正面図である。

【図2】注ぎ口の開口状況を示す図1のA-Aに沿った断面図である。

【符号の説明】

10 自立袋

11 側壁フィルム

12 底壁フィルム

13 注ぎ口片

14 注ぎ口

16 収容部

(3)

特許 3 3 9 1 7 1 8

5

6

17 第1補強線

18 第2補強線

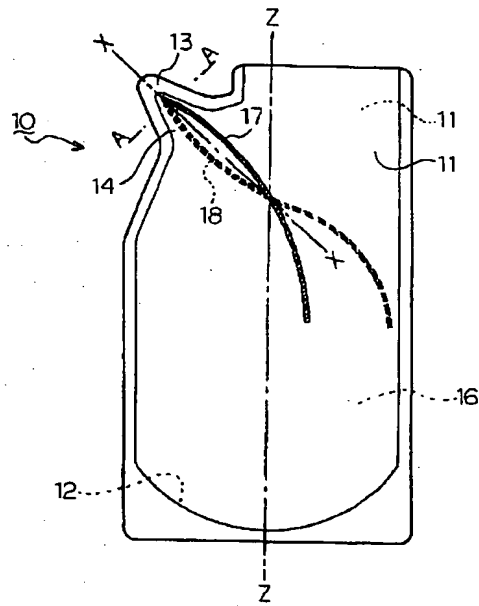
X-X 注ぎ口の突出方向の中心線

\* Y-Y シール中心線

Z-Z 側壁フィルムの縦方向中心線

\*

【図1】



【図2】

